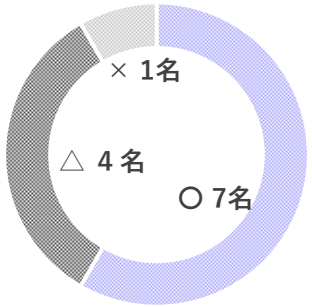
＜各委員等からいただいた評価・ご意見について＞

基本方針①　土佐和紙の原料確保（１／２）

【取り組み大項目】
（１）こうぞ生産が可能な土地の情報収集、
　　あっせんに向けた試験栽培の実施【R元～】
（２）こうぞ生産者と和紙生産者との意見交換会の開催【R3】
（３）楮についてのワークショップの開催【R3～】



◎課題を解決した　…0名
○課題解決に向けて前進が見られた　…7名
△課題解決に向けてあまり進んでいない…4名
×課題解決に向けて全く進んでいない　…1名

評価理由＿下線部は課題部分

・現状を把握する会議に終始し、具体的な打開策が議論されていないように思う。
・意見交換会の開催により、お互いの状況や意見・課題を認識できたと考える。
・課題の共有については少し進めることができたものの、意見交換会に参加できる農家などはごく一部に止まっており、課題について他の手段での広報などはまだ出来ていない。
・意見交換会やワークショップの開催については、新型コロナウイルスの影響が長引く中、昨年から開催を実現できたことは一定評価できるが、検討の深化が図られていない。
・土佐和紙振興の重要なポイントである原料確保に向けた取り組みについて、こうぞ生産者、和紙職人、製紙会社等の関係者が一丸となって課題解決のアイデアを出し合うとともに、試験栽培を実施するなど今後の取り組みに期待できる。
・今までなかった意見交換会、それに基づくワークショップが開催され、関係者がお互いに顔を合わせることができたため。
・工業振興課、紙産業技術センターが、研究をしながら試験栽培等を進めていることが分かる。なかなか目に見える栽培結果は出ていないが、様々な検証がされていると感じる。
・ワークショップの開催など、一定情報共有が行えたが、引き続き課題解決向けた取り組みは必要と考えられる。
・試験栽培について、目に見える結果が出ていないが、様々な検証がされていると感じる。
・「こうぞ」を生産する上での課題を明確にすることができた。一方で、生産者は、「こうぞ」が収益性が低く、最低賃金に遠く及ばないことを認識しているが、労働に見合う対価での取引は無理だと考えており、「地域の伝統、家にあるから」生産を続けている。
また、和紙生産者は、取引価格の多少のアップは容認しても、最低賃金を反映した取引は考えておらず、自社生産に乗り出す傾向と、両者の考えが異なることが明確になった。
そのため、蒸し・へぐり作業の人材確保（ボランティア、農福連携等）、農地の流動化、苗木の供給などについて、検討していく必要がある。
・関係者による意見交換により、課題の共有が図られたことが、前進面で評価できる。
・楮生産者や和紙生産者、関係機関が一堂に会して協議する場が持てたことは今後の連携体制づくりに繋がるものと期待ができる。
・Ｒ３年度に試験栽培した楮を収穫し、紙を漉けたことは原料確保の第一歩になった。楮畑の楮との品質等の違いなどの検証も必要。
・現在は手すき和紙の生産者の間では原料不足の問題は顕著ではなく、楮生産者側は現在の価格では今後の継続が難しいという意見であった。こうぞの生産量は限られており、長年の付き合いのある原料商などが買い取りをしている。県外にどの程度移出されているかは不明。手すき和紙の生産者側は、一定量原料確保をしていたり、自分で生産する等の対策をとっている。 大部分の機械すき和紙の業者は、コストや安定的な原料調達の観点から、外国産楮も使用している。県内産楮にこだわっている機械すき業者は常時不足している状況である

基本方針①　土佐和紙の原料確保（２／２）

意見＿下線部は課題部分

・楮生産が可能な“適地”に試験栽培をする事も打開策の一つかもしれないが、長年栽培してくれ、現在も頑張ってくれている農家の方を最優先に考えるべきではないか。生産者の高齢化が進んでいるが、一部には、維持管理に積極的な人材・団体もあるようなので、その方々と、具体的に今何をすべきか議論すべきでないか。

・原料の調達は他の産地でも課題になっている。海外産の原料は変化していくこと（年々性質がかわる）もあり、安定した品質の和紙を求める消費者向きではない。また現在円安や世界情勢の不安定もあり海外原料の紙は安定供給できなくなってしまった。国産の安定供給の原料があると安心できる。また、楮のワークショップなどはとても興味深い内容なので、一般参加が可能な楮の刈り取り体験などを開催してほしい。楮の生産者⇒原料を買う人、原料を買う人⇒楮の生産者に対しどのような要望や意見がでたのか知りたい。

・課題解決に向けたヘグリの機械化、作業場所や道具などの共有、共同での作業、苗木の確保などの具体策の実施については、なるべく早く試行していくべきである。

・実質的にこれから仕切り直して取り組みを推進していく必要がある。生産体制の確立の取り組みについては、意見交換会やワークショップでの意見を反映し、現況に沿わない施策はスクラップも含めて見直しを行い、新たなアイデア等を今後追加していくことが求められる。

・安定的なこうぞの確保については、人材確保、より高品質で安定化した栽培手法の確立、生産者～加工者～販売者～購入者がお互いにWINWINになり持続可能な環境作りを目指す等、課題は多岐にわたるため、意見交換ができる場の創出は引き続き継続してほしい。

・ワークショップには、関係者・関係機関だけでなく、広く、土佐和紙、楮栽培等に興味がある人にも声をかけて、意見を聞いてみてはどうか。

・ワークショップなど意見交換は、継続開催を展望して頂くとともに、出された課題についてその都度の確認と解決の方向性を一致できるよう集約資料を作成すると良いと考える。

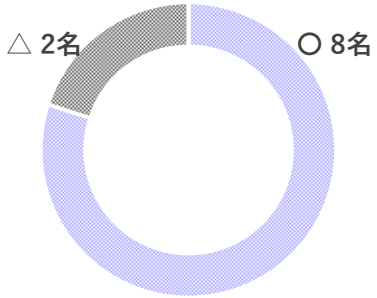
・意見交換会の継続と新たに紙の加工事業者などにも参加してもらうことで、協議内容の充実やネットワークが広がる。

・試験栽培について、将来的に楮生産を希望する人に譲渡し、生産が本格化できればよい。

・楮が長年付き合いのあるルートでしか流通していないのか、県内の製造者が値段的に買い負けているのかどちらかわからない。県外に買い負けているのであれば、県外に対する生産性や収益性の改善策などを考える必要がある。しかし、楮生産者は、楮の価格が生計を維持するための作物とは考えていないが、現在の需給バランスでの価格が決定されている現状を直ちに変えることは難しい。このままでは、栽培技術が廃れてしまうので何らかの保存が必要ではないか。

基本方針②　用具の確保と土佐和紙生産者の後継者育成　__用具不足への対応、人材育成、用具技術の数値化

【取り組み大項目】
（１）用具寸法の数値化【H30】
（２）いの町所有の簀桁の修繕及び貸し出し体制 の構築
　　【R元～】
（３）用具製作技術者の育成



◎課題を解決した　…0名
〇課題解決に向けて前進が見られた　…8名
△課題解決に向けてあまり進んでいない…2名
×課題解決に向けて全く進んでいない　…0名
※上記以外で無回答 … 2 名（以下同じ）

評価理由__下線部は課題部分

・使わない用具の掘り起こし、貸し出し規定ができた。
・用具製作者が毎年度確保できている。
・用具の利用などについて情報が十分に知られていないのではないかと考えられる。
・簀桁の修繕及び貸出を行う仕組みの構築を実現しており、技術者の育成については補助事業を活用した実績を毎年積み上げている。用具寸法の数値化は一定推進されているが、活用方法は今後の検討課題となっており、若干進捗が遅れている。
・研修参加者、研修回数については評価できる水準であり、今後の技術者の拡充に期待がもてる
・研修参加など一定効果があると考えられ、引き続き取り組みが必要。
・紙の博物館に寄贈された数々の簀桁を整理、リスト化でき、規約作成によって貸出体制を構築できた。
・貸し出し体制の構築については、実績が１件なので、和紙職人側にニーズがないのか、行政としての体制整備が不十分な結果なのか判断できない。
・研修の受講者や修了者がでているが、相変わらず県内の手すき職人からの注文の改善にはつながっていないと聞く。研修の結果と実情が乖離しているように思える。

意見__下線部は課題部分

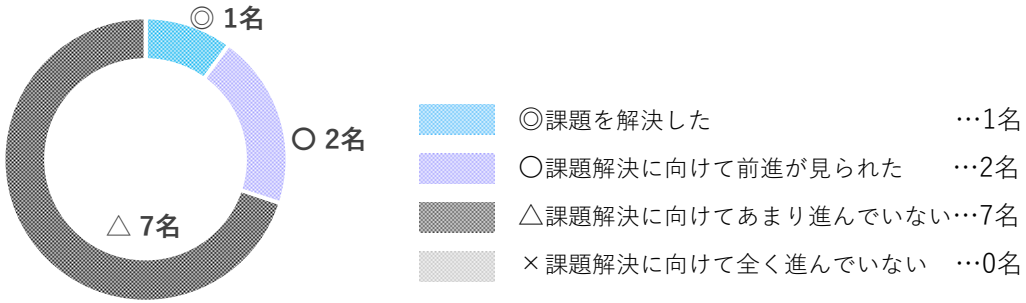
・用具の作成は一品一品がカスタマイズ物になるのかもしれないが、基準（ベース）となる物を作成する際は、木材協会、工業技術センター、工業会等の協力も検討してみてはどうか。
・技術者研修を修了した人材が高知で長期にわたり活躍できる環境整備の強化（安定的な用具需要の確保、最低限〇〇円の収入保障の検討等）
・用具も紙漉きと切り離せない課題。紙漉き職人育成と同様に用具職人も育成してほしい。他県では「腕のいい職人さんに指導してもらえるのは今しかない（高齢化のため）」と移住して職人見習いとして働きながら修行している方がいる。用具も腕のいい熟練の方に習えるチャンスはもう限られると思う。研修された方が用具職人として生活していけるようバックアップしていただきたい。
・用具の貸出し実績が１件しかないことから、せっかく構築した貸出制度を継続して周知していくとともに、対象者に対し、いの町や手すき和紙（協）等からも、より一層活用を促していく取り組みが必要。また、技術者研修を修了した方々が、事業者として独立しているのかなど、その後の状況が知りたい（土佐和紙生産者の後継者育成同様、状況によっては起業のサポートが必要ではないか。）
・用具製作者の育成は全国の和紙産地共通の課題であることから、文化庁が補助金を投下して支援しているところ。県としては、県内の指導者及び研修希望者の確保を保存会とともに進めることが必要。
・これまで寄贈された簀桁は昔のものが大半で現代の職人さんが漉く規格に合っていないものばかり（障子紙など広い規格が多い）だったため、ニーズに合っていなかった。なお、貸出実績の１件（簀桁）は修繕したものであり、今後も職人の意見を拾い、ニーズに合った用具の修理が必要。
・簀編みに対応できる方が1名修了して仕事をしているという話は聞くが、他の方がどういう状況なのか分からない。

基本方針②　用具の確保と土佐和紙生産者の後継者育成　__手漉き和紙の人材育成

【取り組み大項目】

（４）手すき和紙職人の後継者掘り起こしの実施【R元～】

（５）手すき和紙職人の後継者育成



評価理由__下線部は課題部分

・高知県が後継者育成に対して、補助金などで手厚く対応をしている。
・人材の掘り起こし・後継者育成は、県・組合・市町村で連携して実施できている。支援内容についても見直しをしながら使いやすい補助要綱を作るなど工夫している。
・研修制度はあるがあまり活用されていないように思う。
・手漉き和紙に関心を持つ移住者などがいても、人材育成のための受け入れ体制が整っていないことが課題となっている。他県と比較しても、紙漉きのための実践・研究施設や体験の場、機会などに恵まれているにもかかわらず、その活用の機会が移住者や新たな希望者に十分に開かれていないことを解決すべきである。
・せっかく手すき和紙職人に興味を示してくれる方がいるのにも関わらず、前提条件となる受入れ体制が整備されていないことにより、機会を喪失している状況は極めて深刻な問題。長期研修については一定の実績はあげているものの、課題解決に向けて取り組みが進んでいるとは評価できない。
・困難で長期の取り組みが必要な活動ではあるが、掘り起こし、PR活動等は行うも後継者の育成が結果として長期研修生２名という状態は苦戦していると感じる。
・後継者育成については受け入れが十分に行えておらず、引き続き体制づくりの取り組みが必要であると考えられる。
・後継者となるためには、県内在住者以外は移住することが前提となる。相談者が、実際に後継者となる姿を見せることで、移住の判断がしやすくなるのではないか。
・掘り起こしツールの「高知求人ネット」への掲載を中止したままになっている。
・後継者の掘り起こしについては、家系的な後継者以外の希望者がいることが確認できた。しかし、希望者を受け入れる事業者や施設がない。育成については、実際に2名の修了者が県内で製品作りに関わるようになった。

意見__下線部は課題部分

・美濃和紙の里会館のように、紙博での紙の研修・体験及び育成事業等の対応の検討。
・職人は自身の注文をさばくことで忙しいと思うので、職人の家での研修は難しいのでは。若手の職人は素材としての和紙を漉くとこより、アーティストのような紙漉きになる方が多いように思う。アーティスト作品のような和紙より、素材としての和紙の方が需要が多い市場もあり、需要と供給が合ってないのかもしれない。自身のしたいことと、お金になることが合わないと生活ができず、和紙から離れてしまうことになり、せっかくの研修が生かされない。研修の際は技術だけでなく、市場のことも知っていただける機会を設けていただきたい。
・職人や研修修了者から成功体験等を学生、社会人等へ講演できる場作りの検討。
・創作意欲を喚起するため製品、作品の発表の場の創出や表彰制度の整備
・ふるさと納税の返礼品への採用
・安定した需要を確保するため県、市町村での表彰状や各種証書等利用機会の拡大
・喫緊の課題である研修の受け入れ体制整備について、官民一体となり早急に検討し、解決を図ることが必要不可欠。先進県の事例や同じ伝統的工芸品である土佐打刃物の「鍛冶屋創生塾」の取り組み等について研究してはどうか。また、これ以上職人が廃業しないように、例えば研修修了者等が円滑に事業承継できるような体制を構築できないか、「事業承継・引継ぎ支援センター」の活用等も含め、より具体的な検討を進めてはどうか。
・手すき和紙職人になりたい、研修を受けたいという要望はよく聞くが、受け入れ体制が整っていない。受け入れ体制の支援強化が必要。
・多様な和紙の生産を継続するためには、職人の確保が欠かせない。興味を持つ人が増えるように取り組むことが必要。
・希望者がいるのに受入体制が整っておらず、逃してしまうことは非常にもったいないと感じる。研修生の受入体制の整備といった抜本的な課題解決が必要。手すき和紙職人を目指す人のニーズに合った支援（補助制度の見直しなど）が必要。

基本方針③　土佐和紙のPR・販売促進・新商品開発　＿土佐和紙のブランド力の強化

【取り組み大項目】

（１）土佐和紙製品PRパンフレットの作成【R元】

（２）土佐楮にこだわった認証制度の創設【R元～】

評価理由＿下線部は課題部分

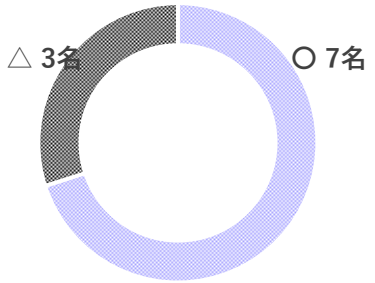
・パンフレットを作成することで、各事業者の「見せる化」につながる取り組み。
・土佐楮和紙の認証制度は、原料生産者・漉き手を結びつけ活性化できると思う。
・事業者個々の特徴を発信するパンフレット作成は一定PR効果はあったと思われるが、科学的な分析データ活用はなされておらず、認証制度も検討から進んでいないことから、ブランド力強化の取り組みとしては弱い。
・土佐和紙、土佐楮の定義については様々な意見があるため、慎重に考える必要がある。
・「土佐楮和紙」の認定制度の創出を期待
・元々存在する「土佐和紙」のブランド力を超えるまでには至っていない。
・パンフレットなど一定効果があると考えられるが、引き続き取り組みが必要であると考えられる。
・ブランド力強化の戦略として、スケジュールや認証のイメージを関係者で共有して、いつの時期までに実施するのか明確でない。
・パンフレットを有効活用できていない。
・認証については、土佐楮の確認や配合割合などどのレベルで具体的な運用の難など、ブランド化に向けた話が進まなかった。

意見＿下線部は課題部分

・土佐楮としてまとめるよりも、様々な品種や産地による違いがある土佐楮そのものの特徴、歴史や文化的、風土的な背景の多様さも活かして行くべき。
・県HPにPDFではなくWEBの特集ページを年更新で作成するなどの検討
・科学的分析により土佐和紙の優位性を示すことや、認証制度の創設は、先日の推進会議でもハードルが高いとの意見も出されたが、現実的にブランド化に資する施策なのか見直しが必要ではないか。
・近年、和紙を内装やイベントに使う消費者の中には、「商品の物語性」を重視される方がいる。その産地の原料をその産地の職人さんが手漉きした和紙の方が、原料がはっきりしないものより付加価値がついて売れると思う。土佐はあかそ・あおそ・とらふなど色々育てていると思うので、「土佐楮」の定義を決める必要があると思う。
・ネームバリューのあるメーカーや有名なデザイナーなどと協力して、目に見えるブランドイメージを作ってみては。
・問屋や芸術家などの既存のユーザーに対しては、ブランド認証は意味を持たないが、一般のユーザーには、県や公的組織が品質を認証していることは購入の契機となるのではないか。
・パンフレットも配布先（ターゲット）を決めて部数も決まる。戦略が必要。

基本方針③　土佐和紙のPR・販売促進・新商品開発　__土佐和紙PR

【取り組み大項目】
（３）高知家プロモーション等でのPR実施【H30～】
（４）イベント等でのPR



◎課題を解決した　…0名
〇課題解決に向けて前進が見られた　…7名
△課題解決に向けてあまり進んでいない…3名
×課題解決に向けて全く進んでいない　…0名

評価理由__下線部は課題部分

・取り組み実績としては若干弱いものの、コロナの影響により推進が困難な状況であった中においては、一定程度の進捗は図られている。
・イベント等を通じて、PR効果は一定達成されていると考えられるが、引き続き取り組みが必要と考えられる。
・地道なプロモーションを実施、計画しているが、コロナによりあまり動けていない。
・土佐和紙全体のPR
・コロナ禍でプロモーション活動が限られるなか、情報発信を続けていたから。
・広報などの機会が設けられていたものの、アンテナショップなどに置かれている品ぞろえなどが少なく、また土佐和紙の魅力や特徴などを伝えるものがほとんどない。多様な土佐和紙だからこそ持っている用途や長短所、利用している薬品や加工方法など、紙による違いをさらに消費者、利用者に伝えるようにすべきではないか。
・県外、海外で訴求力のあるPR活動を展開している
・コロナの状況ではあるが、イベント等でのPRが実施できている。
・高知家プロモーション等でのPRについては、発信件数が少ない。
・コロナによるイベント中止などPRの機会が減少
・コロナ禍でＲ２年からはあまり進まなかったのではないか。

意見__下線部は課題部分

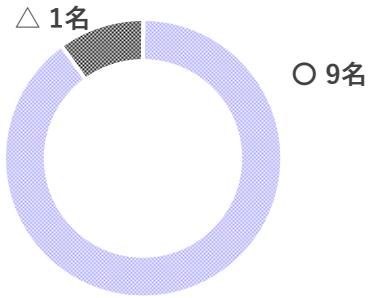
・情報発信方法については、例えばインフルエンサーの活用等も含め、是非見直し・強化を図ってもらいたい。また、土佐和紙保存会の再活動にも期待したい。
・若い世代の消費者からは、「職人さんのSNSが見たい」という意見もある。どのようなところで、どんなふうに作業しているかなど和紙を知らない人には新鮮な情報である。職人自身がSNSをやるのは、難しいと思うので、行政や組合がまとめて、積極的に発信していただけると、若い世代にも和紙を知ってもらえる機会が増えると思う。またホテルオークラの展示について、オークラは高級ホテルなので限られた層の方にしかPRできないと思う。駅の商業施設（オアゾやキッテなど）やイオンモールなど一般の層が多く利用しているところで、展示をした方が見に行きやすい。土佐和紙＝高級というイメージで売り込むなら、ホテルオークラは向いていると思う。
・大阪万博でのPRの検討
・今後、精力的なプロモーションを期待する。
・イベントで得られたユーザーの意見を共有することが必要ではないか。
・土佐和紙を使いたい、漉いてみたい、職人になりたい人の目をひく、心に響く、興味を持ってもらえるような発信が必要

基本方針③　土佐和紙のPR・販売促進・新商品開発　__販売促進

【取り組み大項目】

（５）販路開拓

（６）販売促進



◎課題を解決した　…0名

○課題解決に向けて前進が見られた　…9名

△課題解決に向けてあまり進んでいない…1名

×課題解決に向けて全く進んでいない　…0名

評価理由__下線部は課題部分

- 長引くコロナ禍で経済活動が停滞する中において、工夫しながら概ね各施策の推進が図られている。
- 各種の販売機会の創出や今後のITを活用した販売促進へ期待がもてる。
- 複数の機会を設けていることは評価できるが、<u>海外などへの和紙販売業者との連携、表具師などへの和紙利用の試行を促す機会の設定などをすべきではないか。</u>
- 出展を継続して、販路開拓を継続しているから。
- 国内外への販路拡大のため、県外見本市等の高知県ブースに出展参加することにより、企業単体ではアプローチしきれないバイヤー等との商談機会の創出が見受けられた。
- 地道な販路開拓を実施しているが、コロナの影響もありあまり動けていない。
- 商談会等への出展により一定販売促進が行えていると考えらえる。
- 販路拡大に向けた場づくりは、進展している。
- 販路開拓はやる気のある事業者を後押しする策として欠かせない。
- 紙の博物館販売コーナーのリニューアルについてはお客さんからの「商品が見やすくなった、明るくなった」という声や「レイアウトが参考になる」と写真を撮っていかれるお客さんも居ると聞いている。
- 意欲のある事業者の継続的な出展につながっている。
- 販売促進について、販売機会の確保は非常に大事だが、販売実績が分からない。

意見__下線部は課題部分

- 近年、御朱印ブームにはじまり、「御城印」「武将印」「宿場印」を集めることも流行っている。高知城の御城印用紙がどの紙か分からないが、機械抄きの紙でなく限定で和紙を使用してはいかがか。またお遍路さんの印を四国の和紙で御朱印など。また情報発信は紙媒体より、インスタなどSNSの方が、手軽に情報を手に入れられるのでいいと思う。
- これらの機会が設けられていることを、さらに幅広く伝えるべきではないか。
- 今後より一層の施策の強化を図り、関西・高知経済連携強化戦略の推進にも繋げてもらいたい。
- <u>単に販売機会を確保するだけでなく、販売実績の分析から次の製品開発の流れに持っていけないか</u>。一部、土佐和紙でなく他県産の和紙製品が土佐和紙として販売されているという情報があるので、注意が必要では。
- 来て見て楽しい、新鮮味のある「紙博販売コーナー」とする売り場づくりの支援が必要
- ユーザーを広げるために、まずは、<u>県民に土佐和紙の魅力を感じて頂く機会を充実することが必要</u>と考える（紙すき体験も重要であるが、どのような使い道があるか、使用価値を理解して頂く取り組み）
- 見本市等へ参加する企業はまだまだ一部の企業にとどまっており、参加するメリット等の周知強化やより効果が高い見本市、商談会の手法について情報交換・取集
- デジタルパンフレットは定期的な更新を期待
- <u>伝統産業に興味のあるインバウンド客等に向けた販促が必要</u>。

基本方針③　土佐和紙のPR･販売促進･新商品開発　__新商品開発

【取り組み大項目】
（７）新商品開発への支援実施

評価理由__下線部は課題部分

・総合戦略立案前から、手すきや機械すき和紙業者からの製造技術や製品化の相談に対しては対応しており、単独事業者だけではなく県外の事業者との連携した製品づくりなどを支援している。
・技術支援実績は増加傾向にあり、商品開発実績も４件あるため。
・紙産業技術センターが保有する全国有数の設備や人材を活用し新商品開発に取り組んでいる
・支援や開発活動はされていると思うが、<u>目にする機会がなく分かりにくい。</u>
・どのようなことをおこなっているかわかりません。
・支援実績もあり一定効果はあると考えます。
・紙産業技術センターの研究成果が活かされていると考える。

意見__下線部は課題部分

・多様な土佐和紙、また用いられる薬品や加工法などの違いによって生じる、紙そのものの特徴などを科学的な側面から伝えてほしい。さらにそれらの情報を利用して、海外を含め、長期的な質の保証などにつなげていけるとよい。
・新商品もさることながら、以前あった土佐の和紙を復活させていただけるとうれしい。
・新商品、試作品等に触れる機会があるとよい。
・<u>新商品開発の際、活用できる補助事業等の情報提供や企画から販売戦略までのトータルサポートのさらなる充実</u>
・新商品開発に係る技術や開発の中身は、機密事項等が含まれ公表しづらい部分も多々あると思われるが、可能であれば推進会議において開発概要を知りたい。
・技術支援の相談を気軽にできるように情報発信をさらに強化して頂ければ良い。

基本方針④　土佐和紙文化の発信と無形文化遺産登録　__土佐和紙文化の啓発

【取り組み大項目】
（１）県立施設等での活用や企画展の実施
（２）教育現場での啓発活動の実施
（３）観光分野での活用による啓発【Ｒ３～】
（４）紙とあそぼう作品展の開催
（５）国際版画トリエンナーレ展の開催

評価理由__下線部は課題部分

・総合戦略立案前よりも、企画展などで積極的に土佐和紙をアピールするようになったとの印象。
・県立商業がJRと連携して、土佐和紙に工夫をして様々な宣伝をしてくれている。JRもトイレットペーパなど高知の紙を使用してくれている。
・一部コロナの影響により未開催のものがあったものの、土佐和紙文化の啓発に係る５つの取り組み全てにおいて、概ね計画に近い内容で実績をあげている。但し、当該施策は継続して取り組むべきものであるため○とした。
・企画展や作品展など幅広い年齢層へ土佐和紙の活用を発信している。
・県として必要十分以上の取り組みを行っている
・関係団体、県、市町村ともに精力的に実施している。
・イベントなどの企画を通して一定効果はあると考えるられ、引き続き取り組みが必要であると考えられる。
・取り組みは、計画的に実施されている。ユーザーへの情報発信も取り組めている。
・教育現場での啓発活動については、総合戦略立案前と比べ何が付け加わったかが不明。
・「紙とあそぼう作品展」及び「トリエンナーレ展」については、総合戦略立案前と比べ何が付け加わったかが不明。

意見__下線部は課題部分

・他の伝統工芸と連携した土佐和紙の活用策を促進するべきである。また県内外の書家、版画家、日本画家、ちぎり絵作家、美術系の専門学校・大学、表具師などに、多様な土佐和紙とその特徴などを伝える機会を設けられないか。
・大阪万博でのPRの検討。
・全体的にマンネリ化が見られる。新しい取り組みを考える時期。
・従来の和紙ユーザー以外に遡及する情報提供を継続的に実施して頂ければ良い。
・県内の学生に啓発活動を行うことはとても良いと思う。高知は硯も伝統工芸品であることから、そのようなものや特産物（食べ物）も一緒に展示や展示販売すると来客数も増えると思う。
・引き続き施策及び取り組みの継続強化を図ってもらいたい。

基本方針④　土佐和紙文化の発信と無形文化遺産登録　__ユネスコ無形文化遺産への登録

【取り組み大項目】
（６）ユネスコ無形文化遺産への登録に向けた
土佐和紙保存会の活動支援及び技術保持団体の設立

評価理由__下線部は課題部分

・関係者の方向性は大筋一致していると思われるが細部が一部まだ不透明な所があるように感じるため。
・取り組みは進んでいないが、これから仕切り直しして推進していくことが確認されているため。
・定期的に議論に挙がるが、毎回状況は変わっていない。
・R元年以降活動実態がわからない。前回の会議で、再スタートの話し合いをする報告があった。実際に登録に進める候補和紙が典具帖紙と清張紙の２つだと聞いているが、その点について保存会の考えはどうなのかわからない。
・高知県が力をいれてくれるのは、大変ありがたい
・先日の会議の際、生産者の方々の意見がまだまとまっていないようだったから。
・検討段階であり、引き続き検討を行うことが必要と考えます。
・土佐和紙保存会との課題共有ができなかった。
・具体的な協議ができていない。

意見__下線部は課題部分

・他の産地ではユネスコに登録する和紙の定義や助成金など問題になっている。ユネスコ登録することで、職人さんの間に軋轢が生まれないように願っている。
・特定の和紙のみに活用策が偏らないようにすべきである。土佐和紙についてのガイド、工房への見学などのコーディネートなどができる人材を、県庁などに設けて長期的に和紙担当者がいる体制が作れるとよい。
・土佐和紙保存会の活動活性化から重要無形文化財への申請等も含め、慎重に合意形成を進めてもらいたい。
・登録に向けて進めていくのであれば土佐和紙保存会内に強力なリーダーが必要。会員（職人）の合意形成をしっかりやる必要もある。
・現状、技術保持団体の設立ができていないため、ユネスコ登録は難しいと感じる。
・関係者が合意の上一丸となって推進していくことを期待する
・ユネスコ世界無形文化遺産や国の重要無形文化財指定ということが土佐和紙の評価を高めるものであることは、理解されていると考えるが、それを前提とした取組について、認識一致していないのが現状。まずは、保存会との認識共有を丁寧に実施。